

実施計画事業名		漁業経営安定化事業		評価対象年度	平成 22 年度			
評価担当部署		建設産業部 水産商工課		課長(主幹)名	畑 均			
総合計画体系	分野	5	産業振興					
	政策	1	自然を活用した産業の体質強化					
	施策	1	安全で良質な水産物の供給に努めます					
	関連施策							
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 水揚げの変動による不安定な漁業経営状況に加え、燃油高騰などにより漁業経営は非常に厳しい状況にある。 漁業就業者の減少や高齢化が進んでおり、担い手の確保や効率的な漁業生産体制の構築が求められている。 							
目的	漁業生産を高めて漁業経営の安定と活性化を図ること							
5ヶ年開の	<ul style="list-style-type: none"> 漁業者を目指す青少年や漁協青年部員が道立漁業研修所の研修を受講する経費を補助 施設設備や機器等の近代化のための資金借入れに対する利子補給(5年限度で融資金利の0.625%を補給する。国0.625%、道0.625%、市0.625%) 日本水難救済会稚内・宗谷救難所への補助 稚内水産廃棄物処理協同組合の事業に対する補助(水産加工業者の負担軽減)(21年度) 							
成果指標	名称		単位		21年度	22年度	25年度	
	沿岸漁業1経営体あたりの平均漁獲金額		千円	目標	15,000	15,000	15,000	
活動指標	説明		漁獲金額(1~12月分)/組合員数(12月31日時点) ※いずれも稚内漁業協同組合と宗谷漁業協同組合の合計		実績	12,812	15,123	
	名称		単位		21年度	22年度	25年度	
活動指標	後継者育成		人	目標	3	3	3	
	説明		市が補助を行ない北海道立漁業研修所に入所した後継者の人数		実績	0	1	
	組合員数		人	目標	630	630	630	
	説明		各漁業協同組合(稚内、宗谷、稚内機船)の組合員数 ※各年12月31日現在		実績	629	590	
	近代化資金利子補給件数と補給額		件 千円	目標	100 20,000	100 20,000	100 20,000	
	説明		稚内市近代化資金利子補給規則に基づき、利子補給を行なった件数(上段)と利子補給額(下段)		実績	104 17,990	115 16,030	
			目標	-	-	-		
			実績					
事業費の実績		単位	21年度 (決算)	22年度 (評価年度決算見込)	23年度 (予算)	備考		
	直接事業費(A)		千円	26,530	16,670	20,000	H23は、補正予算の計上予定あり	
	国庫支出金		千円	0	0	0		
	道支出金		千円	0	0	0		
	起債		千円	0	0	0		
	その他		千円	0	0	0		
	一般財源		千円	26,530	16,670	20,000		
	この事業にかかる職員数		人/年	0.45	0.40	0.40		
人件費(B)		千円	3,117	2,716	2,716			
計(A+B)		千円	29,647	19,386	22,716			
状況変化	実施計画当初(平成21年~)からの状況変化							

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	a a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する> 平成22年度は、ナマコやホタテ、ホッケの相場が高く推移したこともあり、1経営体あたりの平均漁獲金額を伸ばすことができた。
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか	
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
コ ス ト 効 率	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
	a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	A 概ね問題なし <A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 沿岸漁業を中心に高齢化が進んでおり、後継者がいない漁家が多いことが課題である。また漁家の減少、燃料高騰等による漁業経営コストの増大、トド・アザラシ等の海獣による漁業被害など構造的な課題を抱えており、現下の情勢を見極め、漁業経営の安定に向けて必要な支援を行っていく。

【2次評価】

成 果	a	細事業の構成	a	細事業の進め方	a	コスト効率	a
総 合 評 価	A 概ね問題なし <2次評価者の視点からコメントを記入する> 1次評価のとおり取り進めること。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--